

## 第4学年 体育科学習指導案

日時 令和5年6月16日(金)  
子ども 4年菅原学級 25名  
指導者 三浦正弘

### I 単元名

遠くに思いっきり ビュンと！  
C 走・跳の運動（投の運動）

### <授業の見どころ>

子どもたちが自分の願いを達成するために運動を選びながら試行錯誤し運動に取り組む姿

### II 単元の指導構想

#### 1 単元について

- 子どもたちは、体育の学習に対して前向きに取り組んでおり、いろいろな動きに挑戦することや友達と関わりながら運動することを楽しみにしている様子が見られる。休み時間には、外に出て鬼ごっこやドッジボールで体を存分に動かしている子どもがいる反面、教室で過ごす子どもも見られる。そして、勝ち負けにこだわりルールを守れない子どもや体を動かすことが苦手な子どももいる。また、昨年度の音楽集会の合奏の取組で、自分たちで練習の計画を立てて、パートごとに教え合いながら、一つの合奏を作り上げる経験をしている。

- 本単元は、2020年から学習指導要領のC 走・跳の運動で「児童の実態に応じて投の運動を加えて指導することができる」と明記されて設定された単元である。体育科における「投げる」という動きは次の二つが考えられる。①A 体づくり運動の用具を操作する動きでは、巧みに「投げる」、E ゲームでは、味方が捕りやすいようなパスや相手がいない場所をねらうシュートとしての「投げる」である。本単元の「投の運動」では「全身を使って遠くへ力いっぱい投げる」ことをねらいとする。投の粗形態の獲得とそれをういた遠投能力の向上を図りながら、「全身を使って遠くへ力いっぱい投げる」ことを楽しめるようにしたい。

昨年度のワールドベースボールクラシックの日本の世界一位獲得により、ボールを投げる映像を見る機会やボールを投げる機会が増えていることが考えられる。しかし、新型コロナウイルス感染症防止のため外や体育館で様々なボールや物を投げて遊ぶ機会が制限されていたことから、遠くに投げる経験が少ない子どももいることが予想される。

これらの学びの文脈を生かして、本単元では、正しい投げ方（①横むきになる②両腕を左右に開いて肘を上げる③体重を後ろ足に移動した後、前方の足を1歩前に踏み出す④スナップを利かせて腕を振り下ろす）を身に付けるようにするとともに、トレーニング的な経験だけでなく、遠くに投げることの楽しみや技能の向上を目指して、自ら進んで運動に取り組み、友達と十分に関わり合い、自分なりに遠くに投げることを楽しめるように学習内容を工夫していきたい。

- 指導に当たっては、次の2点に留意する。

第1時に3年生のときの体力テストのソフトボール投げの記録を確かめ、試しの運動としてソフトボール投げを行う。自分の記録を3年時の記録と比較することで、もっと記録を伸ばしたい、遠くに投げる投げ方を知りたいなど、一人一人の願いや思いを醸成するようにしたい。さらに、単元の最後にはもう一度ソフトボール投げを行うことを確認することで、単元を通して、どんな知識を身に付け、どんな動きを身に付けなければならないのか、自分の学びをデザインしていくようにする。【手立て1 「学びの文脈」のデザイン】

2つ目は、自分の願いや思いの実現に向かって、自分で活動を選ぶことができるようにする。遠くに投げるためのポイントを「速さ」「角度」「高さ」として、友達と見合ったり、ICTを活用したりして、自らの願いや思いを達成するための活動を選ぶことができるようにする。子どもたちがいろいろな活動を試しながら、自らの課題に必要な動きを身に付けることができるように時間と場の保障をする。また、個人の記録を伸ばすことだけに執着することがないように、グループで、投げ方を見合ったり、撮影した動画を共有したりして協働的に学ぶことができるようにする。【手立て2 よりよく学ぶ3つの視点】

## 2 単元構想図

### 単元の目標

遠くへ投げる投げ方を知り、自分に合った活動を選んで投げる運動を繰り返したり、友達にアドバイスをしたりして、全身を使って遠くへ力いっぱい投げる基本的な動きを身につけることができるようにする。

### 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①遠くへ力いっぱい投げる投げ方を知っている。 ②全身を使って、力いっぱい遠くに投げることができる。	③自分に合った活動を選んでいる。 ④より遠くに投げるための投げ方を友達に伝えている。	⑤きまりを守り、誰とも仲良く運動しようとしている。 ⑥場や用具の安全に気を付けて活動しようとしている。

#### 復興教育との関連

##### ○いきる「⑤やり抜く強さ」

自分の願いや課題に向けて、ねばり強く活動に取り組むことができるようにする。

##### ○かかわる「⑨仲間とのつながり」

遠くに投げる投げ方を友達に伝える活動を通して、仲間とのつながりに気付くことができるようにする。

資質・能力の高まり

#### 他教科・領域等

##### 総合「福祉」（2学期）

・それぞれが課題を設定し、解決に向けて取り組む中で、自分たちができることをさらに調べていく。

##### 仁王の子タイム（2学期）

2年 6月

C 走・跳の運動遊び  
(投の運動)

2年 10月

E ゲームスローイングベースボール  
(ベース型)

4年 5月  
力を合わせて競争しよう  
C 走・跳の運動(走の運動)  
・勝敗を受け入れて活動しようとする。

本単元 4年 6月

遠くに思いっきり  
ビュンと!

C 走・跳の運動  
(投の運動)

#### 主運動

- ・ボール投げ
- ・ソフトボール投げ

4年 8月  
リズムカルに高くジャンプ!  
C 走・跳の運動(跳の運動)

5年 2月

E ゲームハンドボール(ゴール型)

4年 11月  
みんなでタッチダウン(フラッグフットボール)(E ゲーム)

6年 6月  
C 走・跳の運動(投の運動)

教科の学習内容

#### 他教科・領域等

スポーツフェスタ 行事 4年 5月  
・テーマや自分の目標に向かって、問題や解決策を考え、達成に向けて活動する中で、友達のよさや考え方に気付くことができるようにする。

#### 見方・考え方を働かせるポイント

- 正しい投げ方をしる・する  
ボールを遠くへ力いっぱい投げるには正しい投げ方があることを知る。
- 友達と関わりながらする・支える  
自分が考えたことを友達に伝えたり活動を選んだりしている。

#### 願い

- ・ボールを遠くに投げたい。
- ・ボールを遠くに投げるにはどうすればよいのかを知りたい。
- ・友達の楽しくボール投げに取り組みたい。

#### 教科の力

- 体育の学習に前向きに取り組んでいる子どもが多い。
- 自分(たち)で活動を考えたり工夫したりしようとする子どももいる。
- 勝敗にこだわるあまり自分勝手に動いてしまう子どもがいる。
- 体育の学習に苦手意識をもつ子どもがいる。

### 子どもの実態

### 3 単元の指導及び評価の計画（全6時間）

時	○学習活動	◆研究の手立て	評 価			
			知 技	身 體	態 度	評価規準 (評価方法)
1	○3年生の時のソフトボール投げや投の運動を想起する。 ○試しの運動でソフトボール投げを行う。	<b>手立て1</b> <b>課題解決への道筋</b> ◆単元のゴールとそれに向けてどんな知識や技能、活動が必要か子どもたちと共有する。			⑥	場や用具の安全に気を付けて運動している。(観察・発言・体育ノート)
2	○パワーアップ運動のやり方を知る。 ○ボール投げを行う。 <b>正しい投げ方を知る</b> <b>「速さ」「角度」「高さ」</b>		①			遠くへ力いっぱい投げる投げ方を知ることができる。(観察・発言・体育ノート)
3	○パワーアップ運動を行う。 ・バトンスロー（肘の高さ） ・クルクルスロー（手首のスナップ） ・紙鉄砲（手首のスナップ） ・的あて（横向き） ・膝立ち投げ（体のひねり） ・スナップスロー（手首のスナップ）	<b>手立て2</b> <b>運動と多様にかかわる時間の保障</b> ◆自分（たち）の課題を解決するための活動を選ぶ場を設定する。 ◆見合ったり、ICT機器を活用したりしながら、何度も繰り返し試すことができる機会を保障する。			⑤	決まりを守りながら運動に取り組み、力いっぱいボールを遠くへ投げるができる。(観察・体育ノート)
4	○よい動きの共有 ○ボール投げ		④			より遠くへ投げる投げ方を考え、友達に伝えている。(観察・発言・体育ノート)
5 本時	○正しい投げ方の確認 ①横むきになる ②両腕を左右に開いて肘を上げる ③体重を後ろ足に移動した後、前方の足を1歩前に踏み出す ④スナップを利かせて腕を振り下ろす ○多様に運動とかかわる時間 ○ボール投げ	<b>手立て1</b> <b>課題解決への道筋</b> ◆目指す姿にどれだけ近づけたかを振り返る。			③	自分（たち）に合った活動を選んでいる。(観察・発言・体育ノート)
6	○菅原学級ボール投げオリンピック（全国・体力運動能力テスト）を行う。 ○単元の振り返りをする。		②			学習した知識を用いて、遠くへボールを投げるができる。(観察・記録)

### Ⅲ 本時の指導

#### 1 目標

- 遠くに力いっぱい投げるができるように、自分（たち）に合った運動を選び、活動することができる。

#### 2 評価規準

##### 【思考・判断・表現】

- ・自分（たち）の願いや思いを叶えるために、グループで動きを見合ったり、ICT機器を活用したりしながら、課題解決に向けて、自分（たち）に合った運動を選び活動している。
- <努力を要する状況の児童への手立て>

遠くに投げる3つのポイントを確かめ、よい動きの友達と一緒に観察したりして、自分の課題解決に向けて、活動を選ぶように助言する。

3 展開 (5 / 6時)

段階	学習活動	時間	◆研究にかかわる手立て 予想される子どもの反応	・留意点 【評価】
導入	<p>1 学習内容の確認</p> <p>2 準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチ (タオルを使う)</li> <li>・基礎感覚づくりを養う運動</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バトンスロー (肘の高さ)</li> <li>・クルクルスロー (手首のスナップ)</li> <li>・紙鉄砲 (手首のスナップ)</li> <li>・的あて (横向き)</li> <li>・膝立ち投げ (体のひねり)</li> <li>・スナップスロー (手首のスナップ)</li> </ul> </div>	1  1 2	<p><b>手立て1</b> <b>課題解決への道筋</b></p> <p>◆第1時で確かめた願い表を活用しながら、本時は「ボール投げの自分の課題を解決したい」という意識を高め、本時の課題を設定していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に健康観察や服装点検、用具や場所の安全を確認しておく。</li> <li>・投の運動につながる基礎感覚を養う動き作りを準備運動に位置付ける。</li> </ul>
展開	<p>3 投の運動</p> <p>(1) 課題を設定する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分の課題に合った練習を選んで、遠くに力いっぱい投げよう。</p> </div> <p>(2) 投の運動</p> <p>①自分(たち)の課題に合った練習の場でやってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎感覚づくりを養う運動の中から、遠くに投げる3つのポイント「速さ」「角度」「高さ」を視点にして、自分の課題に合った運動を選んで行う。</li> <li>・グループで動きを見合ってアドバイスを合ったり、ICT機器を活用して撮影した動画を見たりしながら、いろいろな活動を試す。</li> </ul> <p>4 整理運動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肩の筋肉を中心にほぐすように大きくゆっくりと行うようにする。</li> </ul>	2  2 3	<p><b>手立て1</b> <b>課題解決への道筋</b></p> <p>◆遠くに投げる3つのポイントを視点にして、自分の課題に目を向け、課題解決に向けてどの活動をすればよいかの道筋をつける。</p> <p><b>手立て2</b> <b>運動と多様にかかわる時間の保障</b></p> <p>◆自分の課題に合った場を選んで、投の運動に取り組ませるようにする。</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;">  <p>遠くに投げる3つのポイントやこれまでの学習、友達の考えとつなげて、自分の課題を解決するために活動を選んで、活動を試しながら繰り返し運動している姿。(つかう)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題に合った場で練習してみて、自分の課題がどのように変化したのか確かめるようにする。</li> </ul> <p><b>【思・判・表】</b></p> <p>自分の課題に合った場を選び投の運動に取り組んでいる。(行動観察・発言)</p>
終末	<p>5 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の自分の学習について</li> <li>・友達のよかったところについて</li> </ul> <p>6 後始末</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に留意させながら、素早く協力して行うようにする。</li> <li>・汗の始末や手洗い・うがいをするように指示する。</li> </ul>	7	<p><b>手立て1</b> <b>課題解決への道筋</b></p> <p>◆次時の学習は、ソフトボール投げであることを伝える。</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>【期待する子どもの振り返り】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・角度をつけたいから、バトンスローをたくさんやったらいつもより遠くに投げることができた。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動きの高まりが見られた友達の動きを紹介し、全体で確かめるようにすることで集団の高まりについても気付かせる。</li> </ul>

